

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0171600265), 法人名 (有限会社 グループホーム・和), 事業所名 (グループホーム・なごみ), 所在地 (檜山郡江差町字田沢町492番地3), 自己評価作成日 (令和5年12月31日), 評価結果市町村受理日 (令和6年3月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長い人生の中で積み上げてきたその人らしい人格が束縛されることなく、安心と尊厳の中でその人らしいごく普通の暮らしができる支援をしています。
具体的には
1. その人の心身的能力に応じた地域参加...町内会各行事(地域交流会・児童保育園交流会・お祭り・リサイクル活動など)
2. その人の生活背景からあたりまえの暮らしの継続...回想法・五感刺激(自然に触れ合う)・調理家事手伝いや山菜など自然とのふれあい
3. その人の残存機能維持、向上に伴う介護予防...その人のどの部分に働きかけどの部分を維持するか→座談・唄う・散歩・足湯・温泉・山菜取りなど
運営推進委員による町の情報、高校生のボランティア、新鮮な地元の産物を差し入れてくれるご家族や、ご理解のある近くのコンビニや床屋・近所の方々に支えられて運営しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JisvsvosvCd=0171600265-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年2月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町の中心部から車で数分の郊外で田園風景が広がり、隣には別法人が運営している老健施設があり、特養や病院も適度な距離に在る等、自然に包まれながら福祉的な環境も併せた場所に立地している。隣接する同法人のグループホーム事業所と共に、高齢者住宅やデイサービスを含めた複合型施設として、2003年に開設された。事業所では、毎年色々な角度・視点でアンケート調査を利用者に対して行い、回答の分析を続けて解決に努め、サービスの向上に繋げている。食量や好み、味の濃淡等の統計的な見地と、利用者ひとり一人の嗜好の把握に努めるなど、日常的サービスへの振り返りを全職員で行っている。今年度は面会、外出、外泊の制限を緩和して家族と会える機会作りに努め、利用者一人ひとりの個性や心身の状況、意向の聞き取りに注力し、安心して充実した暮らしが送れるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年目標を立て全体会議などで共有し日々の介護に取り組んでいる。今年度は「楽しい時も困った時も苦しい時も笑顔で解決」	事業所理念の他、全職員で意見を出し合って作成した年間目標を掲げ、日常的に共有している。また、目標の達成度について定期的に会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流としては3年振りに地域のお祭りに参加。門払いや山車見学も楽しめた。	春以降、地域との活動は再開しつつあり、日常的な挨拶や活動・催事への参加等、近隣住民との関係維持に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだコロナウイルス感染防止のため研修の受け入れは難しい状況だったが、外部研修や地域交流が少しずつ増えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は6回/年行い、感染症流行時には書面開催もあり。町、地域の方、民生委員様々な方に参加いただき、アドバイスや質疑応答もありサービス向上に活かしている。内容は災害訓練報告・事故報告・人事配置・毎月の会議内容、虐待防止委員会からの報告や研修内容など。ご家族へ議事録の配布もしている。	家族、地域代表、行政に参加、協力を得て定例で開催している。事業報告や利用者の生活状況について報告しており、委員からの意見を聴取して、サービスの質の向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は社長・マネージャー・管理者・ケアマネが常に取りあい相互に行き来し協力関係ができています。	町、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への協力や運営状況、事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け指針を定めて3か月に1回は全体会議で報告している。毎月ユニット会議でも状況の確認・検討をおこなっている。外部・内部研修内容は全員周知している。	身体拘束、虐待防止委員会を設置し、定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、全職員で共有している。不適切なケアと思われる事は、その場でお互いが注意し合えるよう、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を令和4年度設置し、指針を定めて6か月に一度開催し全体会議にて報告。日々の言動が虐待にあたらないか、委員会からの議題発信で全員で勉強会をおこなったり、テレビ新聞の情報をもとに研修をおこなっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、生活保護受給者への各関係者との連携も出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用者様ご家族のご希望を伺い、不安や疑問点を納得して頂けるよう説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望は個別に記録し都度職員間で話し合い、出来る限り早めに対応している。利用者へのアンケートも意見をいただいている。	現在は、主に面会来訪時に声掛けし、家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。アンケートや電話、ホーム便り、運営推進会議録の送付等、多様な情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・管理者会議で意見交換することで反映できている。	主に申し送り時や全体会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、定例の個別面談の他、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別性を重視し、子育てや通院日への配慮も含め働きやすい環境を提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく外部研修を受けられるよう調整している。最近はオンライン研修が主流になってきているので可能な限り出席し全体会議にて発表している。研修記録は資料と共に全職員に周知されている。新人研修はマニュアルに沿っておこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会ケアマネ連絡会にも徐々に参加することが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人やご家族からの情報で本人の生活歴・趣味・嗜好品などを聞き取り、安心できる関係性を構築できるよう努めている。コミュニケーションを大切にしていること求めていることを聞く機会を作り支援につなげている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の意見を大切にしよう心がけている。不安や要望を出来る限り受け入れ信頼関係を築くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族等とのアセスメントを繰返し行う事でニーズを見極め、より良いサービスを提供できるよう努めている。福祉用具の必要性を相談しながら活用につなげている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で家事作業など出来る事を共に行い役割をもって生活して頂いている。持っている力を引出して頂けるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を電話や面会時に報告。おたよりで行事や日常生活の写真を載せ伝える事で喜ばれている。誕生月には日々の写真や手紙などご家族に送る事で日々の様子がわかり安心へと繋がっている。本人へ差し入れなどもあり喜んでいる。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防に注意し面会もできている。希望のある場所への外出は職員の同行や家族の協力を得て支援している。行きつけの美容室へでかけたり電話で会話されるなど関係が途切れないようにしている。	現在も難しい面もあるが、感染防止に留意しながら、できる限り対面で会話ができる面会環境を提供し、馴染みの関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関りを持てるようテーブル席の位置に配慮したり、個々の趣味や特技を把握し関係性に配慮している。孤立せず楽しい時間を持てるよう努めている。普段関りの少ない方とも行事などで交流できるよう配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族や病院と連絡をとり、必要な場合はできる限り支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話だけではなく日々の様子などからも、思いを読み取るよう心がけている。生活歴や家族からの情報も参考にしている。	日々の生活の中で言葉や表情、行動から思いを把握、職員間で共有して、本人の意向に沿った生活となるよう支援している。家族からも情報を得て、定期的なアセスメントを行い、プラン化に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、居宅ケアマネージャーからの情報と、ご本人・ご家族からの情報をもとに基本情報を作成し共有できている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し記録に残し把握に努めている。気になる事や変化があれば詳しく記録し共有している。変化が著しい方には、状況と対策を一覧に記入、共有し、ひとめでわかるように工夫している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時には、本人家族の意向を確認し意見を反映させ計画書を作成している。モニタリングは3か月ごとに行い、状況に合わせて6か月か1年で更新している。病変や入院等によりその場で更新する場合もあり、状況に応じた介護計画を作成している。	本人の気持ち、思いを大切に家族の意向を据えながら計画を作成し、短期目標を設定している。日々の職員の気付きやモニタリング結果を基に課題評価を行い、本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや月に1回ユニット会議で問題点・ケアの方法などを話しあい、個人の介護計画に活かせるよう、日々の様子を細かく記録し、職員同士も情報交換しながら、介護計画が立てられるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて本人の受診を同行したり、必要書類の提出なども柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事も難しい状況だったが少しずつお祭りなどに参加することができた。江差町の図書サービスの利用は継続できた。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化がある時は主治医に連絡、相談して受診している。その際はご家族にも報告している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、受診内容については記録を基に、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化や気付いたこと、わからない事など相談し、適切な指示をもらえる環境を整えている。夜間、休日もかかりつけの医師や看護師に連絡できるよう連絡先も把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行う	入院後退院後も医療機関と連絡をとり状況把握をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、契約時に書面で説明し同意を得ている。医療行為が不可欠になった場合は、看取り介護をおこなっていないため医師と家族、事業所で話し合い本人・家族が最適な方法を選べるよう支援している。終末期のあり方について普段の会話から汲み取り意向を確認、ご家族にも常に連絡をとり話合っている。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有、研修に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、対応マニュアル・連絡体制はできており、応急手当の方法を把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で避難訓練をおこなっている。火災訓練は2回、自然災害訓練は3回実施。非常用発電機の使用方法も戸外で勉強会を行う。ご家族への避難場所の周知もおたよりを通してしている。エレベーターが使用できない時を想定して、方法を職員全体で考えている。	年2回、マニュアルを基に同法人の他サービス事業所と併せ、火災、自然災害を含めた避難訓練を行っている。定期的に緊急持出し用の避難グッズや備蓄品を確認して、不意の災害に備えている。	法人としてBCP(業務継続計画)を策定しており、併せて感染に関する委員会を設置する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各場面での声掛け、排泄や入浴等の介助の際は細かな気配りや声掛けを行い、羞恥心を傷つけないよう声の大きさ言葉遣いに注意している。	接遇面は研修で学び、不適切なケアは職員同士で注意し合える関係作りに努めている。呼称は苗字にさん付けとし、一人ひとりの人格の尊重を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いや希望をくみとり、自己決定ができるよう発言しやすい環境を心掛けている。本人が理解できるよう分かりやすい言葉や文字、写真などを使って様々な工夫をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員が同じ活動をするのではなく、毎日個人の意見を聞き、その日の本人の希望に添って体調を考慮し過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選んで頂いたり、本人の希望を大切にしている。入浴後に爪切りをし、朝の洗面時にも身だしなみを整えるお手伝いをしている。感染症など流行の状態をみながらなじみの美容室へ送迎したり、理容師の訪問カットをしていただいている。毛染めパーマも希望に沿っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いやアレルギー等を考慮して食事を提供し、パン食希望にも応じている。行事食や季節感を楽しめるメニューを工夫し提供している。	食事は個々の嗜好に合わせており、食べやすさ、盛り付けに留意している。体調や体力に合わせて、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調、食事形態に合わせて提供している。食事・水分摂取量が把握できるよう記録を残している。嗜好品や好きな飲み物、飲めそうなものについて、ご家族や本人から聞き提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。磨き残しがある方は仕上げ磨きを行ったり、状態に合わせてスポンジ、液体歯磨きに変更している。夕食後は義歯の浸け置き洗浄をし、義歯や歯の調子が悪い時は歯科医を受診している。歯間ブラシの活用もある。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し対応している。羞恥心に配慮した声掛け、自尊心を傷つけない対応を意識している。歩行状態によってポータブルトイレを活用している。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、水分摂取や運動を取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	居室で過ごす際も水分を摂取出来るようポットやカップに入れ提供している。歩行訓練や体操など運動の時間を増やし便秘予防に取り組んでいる。本人や家族の希望でヤクルト・ヨーグルト、排便につながる食べ物等提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉入浴や各ユニットでの入浴に対応している。利用者がスムーズに入れるよう時間やタイミングを工夫している。	週2回の入浴は体調や気分に合わせて、利用者ごとにゆったりと時間を取って支援している。拒否がある場合も、担当者や時間を変更し、柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう日中は活動に参加してもらっている、活動への声掛けはおこなっているが、体調がすぐれない時、居室で過ごしたい時は意思を尊重している。定期的に寝具類の交換をおこなっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や服用方法に変更があった場合は、申し送りや記録をし、常に職員が把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事や裁縫を自分の役割とし、イキイキとおこなっている。個々の力に合わせて催事の飾り作りなど一緒に行い楽しませている。また、ドライブや他ユニットへカラオケに出かけるなど個々に楽しませている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容室の送迎や隣の街にドライブに出かけたり支援している。歩行訓練をかねて散歩に外出。ご家族との外出は通院以外控えているためおこなっていない。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物、家族との外出、外泊等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。自粛していた行事等の再開に向け、職員間で話し合っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物・必要な物は把握して職員が買い物をしたり一緒に出掛け購入することもある。ご家族面会時に購入して持ってきて頂くケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯電話、または施設の電話でご家族とお話している。日常の写真を家族に送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室入り口などに季節に合った飾りを制作し、装飾や掲示をし、楽しむことができています。生花を花瓶に入れ季節感を感じたり、写真や作品なども展示し、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	共用スペースは利用者の体感を聞き取りながら、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作りに留意し、椅子やソファを各所に配置し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人用のテーブルを使用したり、テーブルやソファの位置を変更するなどその人に合わせて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や日用品を持ち込み本人が居心地の良い部屋になっている。移動・移乗がスムーズに行えるよう衣装ケースやテレビ等の配置にも注意している。	居室は適正な広さが確保され、動線に注意した配置で馴染みの家具が置かれており、また壁には家族写真も貼られ、自分の部屋としてゆっくり過ごせる工夫となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターが設置され、移動の際利用している。居室入り口に名札を下げ自室を分かりやすくしている。場所を示す張り紙で自立した生活が送れるようにしている。		